

# 大学の情報公開，これから重要に 本部移転はできるだけ早くやりたい

本シリーズの五回目として、三月七日に、これからの大学広報のあり方、大学組織運営のあり方などについてインタビューを行った。聞き手は広報委員長と小田広報委員。

**広報委員** Ⅱ 今年度の広報委員の任期も本号で終わりです。そこで、広報委員会や広大フォーラムについての学長の「ご意見をお聞きしたい」と思います

**学長** Ⅱ 「縦書きになってからフォーラムは非常に読みやすくなった。年ごとに非常に良い広報誌になっている。昨年は最優秀賞を受賞したが、今年は一段と内容が良くなった。読みやすくなったし、特に大学院問題など、大崎氏のような専門家の目にも止まるようになったのは嬉しい。

大学の目標の一つとして、学生の意識を上げることが必要である。そのため、フォーラムに学生が気楽に書ける欄を設けたりして、学生の意見を吸い上げるようにしたいものである。広大を良くするためにどうしたらいいか、皆さんの意見を率直にフォーラムに出して欲しい」

**編集部** としては教官などの原稿が堅苦しくて、学生に十分に読んでもらえないのが悩みなのですが



全学広報メディアとしてこれからも頑張ってもらいたい

「確かに、教官の文章は硬い。専門雑誌に出す論文の文章とフォーラムのような広報誌に出す文章は自ずから異なる。フォーラムは、学生や他の教官、さらに報道関係者も含め学外に対する情報発信の場でもあるので、その人たちに對するPRと位置づける必要がある。研究費が来ないという話を聞くが、研究費をもらうにも、申請書の文章を審査する側にわかりやすくするという努力が必要だ。これからは、一人で研究する時代ではないので、教官同士の活性化のためにも、自分が何をやっているか大学構成員にわかりやすく説明する努力が必要だ。

今年から、学会賞をもらった人などは特別に表彰するようにした。手も挙げない口も開かない、貝になった大学人は困る」

## 今後の大学広報のあり方について

「まず構成員に、大学の中で発生している情報を正確に早く知らせることが必要だ。情報公開の必要性がある。これは、疑心暗鬼にとらわれたり、不正確な噂にまどわされたりするのを防ぐのに重要で、フォーラムは、その点では唯一の全学広報メディアなので、これからもしっかりやって欲しい。

本学の重要な機能として、外部に對する情報発信ということがあがるが、西

条の地に移転するので、地理的には不利になる。この点を踏まえ、広報委員会の組織の見直し、バックアップする事務組織の見直しなども今後やりたい。特に、広報委員の任期一年は短すぎると思う」

**学部教官等の自己点検・自己評価は進んでいますか、大学管理運営組織の方はどうなっていますか**

「あまりにも多すぎる委員会組織を減らしたり、部局長連絡会議のメンバーを増やし、全学的な問題について効率のよい会議ができるようにすることを考えている。

特に、これまで各種の委員会から優れた答申案が提出されているので、今後は、審議機関である評議会とは別組織で実行のための委員会を作り、できることから実行することを考えている。委員には、部局の利益誘導にとらわれない活力ある若手の教授を選びたい」

**全学の委員会を効率的に行うためにも、本部の西条キャンパスへの早急な移転が必要だと思いませんか**

「おっしゃるとおりで、指揮官が前線に出る野戦司令部が必要だ。後方指令部では困る。本部棟の移転は、今年中にも杭打ちをできるようにしたい。

また、会議も西条キャンパスで開く回数を増やしていきたい。学生や一般教職員の直面している状況を実感するために、私も公用車を使わず、広島市の自宅から公共交通機関を使って通勤することもやってみたい。やはりトップが身を張って現地の状況を把握することが重要だと思う」。